

第 3413 図

あかばな科



第 3414 図

あかばな科



第 3415 図

ひし科



みやまあかばな

一名こあかばな

Epilobium Hornemanni Reichb.
var. Foucaudianum Hara
(=*E. lucens Lév.*)

本州中部以北の高山帯や深山の溪側に生ずる多年生の小草本である。茎は高さ5-20cm、上部には腺毛を散生する。葉は対生し、長卵形で基は細まり短い柄となり、縁には低い不明瞭な鋸歯があり、長さ1-4cm巾3-13mm、質はうすく殆ど無毛である。上部の葉はやや尖る。7月、茎上部葉腋から花梗をだし、淡紅色の花を開く。花梗と子房には腺毛がある。花弁は4-6mm長、萼は長さ3-4.5mm、4深裂し、裂片は広披針形。花弁は4枚、長倒卵形で先は2裂する。雄蕊4、雌蕊は1、柱頭は棍棒状。蒴果は長さ2-6cm、種子は倒披針形で微細な乳頭状突起があり、絹糸状の冠毛がある。第881図のものはケゴンアカバナ。

いろまつよい

Godetia amoena Lilja

北米カリフォルニア地方原産の一年生草本。花圃に栽培され、切花となる。高さ40-60cm、全株に短毛あり、葉は互生し線状披針形、葉面は毛茸のため帯白色を呈し、葉腋に短い枝を生じて、小形の葉を叢生する。夏時、枝端に径5cm内外4弁、紅色、底白の美花を数個開く。蕾は円筒状で直立し、互に辺縁で合着する4萼片にて包まれるが、開花の時その一方が急に裂けて反転し、花弁を現わす。花弁は薄質円頭、先端やや凹入し、全体不規則な波状縁をなし、基部は狭まり、8雄蕊、1雌蕊があり、柱頭は4岐、子房は下位、円筒状で4室あり、花梗は短い。和名は色待宵の意。

めびし

Trapa natans L. var. rubeola
Makino (= *T. japonica Flerov*
var. rubeola Ohwi)

池中に生ずる1年生草本。ヒシに酷似し、果実及び葉柄の色以外の部では区別し難い。茎は細長、葉の枯死した節より羽毛状に分裂する根を發し、葉は茎頂に集って平面に放射状に開き、菱状三角形、上半部に不齊の鋸歯があり、下半は全縁、上面は無毛、光沢があり、下面は淡綠色、軟毛を布き、柄は帯紅色、膨腫部を中央に有し、空気を多く含んで植物体を水面に浮上せしめる。夏時葉間より白色4弁の有梗花を水中より出し、萼は4片、4雄蕊、1花柱があり、核果は有梗で水中に下垂し、扁圧された倒円錐形で、左右に刺針があり、その先端に小逆刺を具える。背腹の刺針は短かく稍と逆向する。和名は雌菱の意。

やえやまひるぎ

一名おおばひるぎ

Rhizophora mucronata Lam.

熱帯の河口等泥土に生ずる常緑喬木高さ3-10m、樹幹の下方より太い気根を斜下して体を支える。小枝は太く、葉痕明瞭、葉は対生、革質、表面光沢強く、橢円形先端微突頭、全縁、長さ15cm、葉柄は太く3-5cm許。花序は腋生、聚繖状、やや下向して数花を開く。花は黄白色、萼裂片4個、小形、花弁4個、内面に毛があり、雄蕊8個、短花糸、花柱は花外に出ない。萼片は宿存、種子は樹上で発芽し、長さ40-80cm、やや稜ある暗オリーブ色の幼根を發して垂下する。幼根は先端稍と尖り、基部は細く、中部より先の方が最も太い。旧熱帯に広く分布し、琉球、八重山群島に多い。和名のヒルギは漂木の意であろう。別に幼根の形を水蛭に見立て蛭木とする説がある。

めひるぎ

一名りゅうきゅうこうがい(琉球筭)

Kandelia Candel Druce (= *Rhizophora Candel L.*)

熱帯の浅海、泥中に生育する常緑喬木、高さ4-5m許、下方から気根を斜下して支柱とする。葉は対生、厚革質、表面光沢強く、長さ8-15cm許、長橢円形、円頭。花は腋生の二二分岐する聚繖花序、萼裂片は5個、裂片は線形、花弁は白色、5個、2裂し、先端に長毛が多く、雄蕊は多数直立し、花糸は長い。子房下位、花柱は単一、雄蕊と略同長、柱頭は3岐する。果実は卵形、長さ2-3cm許、宿存萼は反捲、胎生発芽し、幼根は長さ30-40cm、オリーブ綠色、基部は細く、中部より先において最も太い。旧熱帯に広く分布し、本邦には琉球屋久島及び鹿児島県喜入村に産する。和名は雌漂木の意であろう。

おひるぎ

一名べにがくひるぎ

Bruguiera conjugata Merr.

(=*B. gymnorrhiza Lam.*)

熱帯浅海の泥土上に生育する常緑喬木。高さ2-8m、根は泥中より膝曲して出で奇状を呈する。枝は太く、葉は革質で厚く、対生、全縁、表面光沢強く、長さ8-12cm許、長橢円形で両端尖る。葉柄は紅色を帯び、葉痕明瞭。花は葉腋に単生、下向、萼は筒状、紅色、下位子房を有し、上半は8-12片に深く裂け、裂片は厚質線形、先端尖り、中に花弁を抱く。花弁は淡黄白色、二浅裂、先端に長毛がある。果実は萼片を宿存し、長さ3cm許、種子は樹上で発芽し、円柱状長さ20cm許、稍と稜があり、オリーブ綠色、時に帯紅色。旧熱帯に広く分布し、琉球八重山群島に多く、北は奄美大島まで。名は雄漂木か。ベニガクは紅萼。

第 3416 図

ひるぎ科



第 3417 図

ひるぎ科



第 3418 図

ひるぎ科

